



カトリック六甲教会 教会報

2009

1

No.445



謹賀新年

桜井 彦孝 神父

皆様、明けましておめでとうございます。平成21年・西暦2009年という新しい年を迎えました。神の祝福のうちに新年をことほぎ、皆様とご家族・ご友人お一人お一人のご健康とご多幸を心から祈念致します。この地上の歴史・人類の歴史に、また新しい一つの時が刻まれました。その新しい時を厳粛に受け止めながら、私たちは教会共同体・神の家族として信仰を深める年でありますように！ 平和な年でありますように！ との切なる願いを込めて、新年の歩みを始めましょう。

“一年の計は元旦にあり”。NHKのテレビ番組「その時、歴史は動いた」を観ていて、一年の計に相応しい言葉を見つけましたので、ここにご紹介したいと思います。その一つは、「今一度、日本という国をせんたく致したき候」。明治維新に活躍した坂本龍馬（享年33歳）が横浜港でアメリカの黒船艦隊の異様を見て、驚きのうちに発した言葉です。新しい変化や未知なる世界に驚きながらも、内なる自分と生きている此の世界を見直したいと願う柔らかい姿勢を感じます。私たちにとっては社会の目まぐるしい変化に驚きながらも、全てを司っておられる神のはからいに心を馳せることではないでしょうか。また、日々心の洗濯をしながら、私の生き方・その姿勢は何処か曲がっていないだろうか、古い人間のままではないだろうか・・・と究明しながら、神の子供として新しい生き方をしたい、自由で寛容な心を育てたいという願いに通じていると思います。

その二つ目は、「おもしろきことの無い世をおもしろく」。同時代の高杉晋作（享年29歳）が、幕府による長い封建時代を倒して、民主主義の新しい時代を目指した言葉です。階級制度（士農工商）や男尊女卑に苦しんできた人々にとって、味のある人生、生き甲斐のある心豊かな人生、生きていることが嬉しい（おもしろい）世の中を作りたい。そのおもしろさは漫才落語の面白さではなく、一人一人の人間が神様から与えられた尊い命を燃やししながら、一回の地上の人生、波乱万丈の人生を神に向かって生きて行こうという志を感じる言葉です。

二人の青年が命をかけて語った言葉には、なかなか含蓄がありますね。一年の計にしたい言葉です。しかし、同じ世代で十字架を背負われた救い主イエス・キリストは、さらに素晴らしい言葉を残されました。それは一年の計どころではなく、私たちの生涯をつらめく言葉であり、永遠に消え去らない神の言葉なのです。「私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」「私の父のみ心は、子を見て信じる者が皆永遠の命を得ることである。」「ヨハネ福音書」



信徒の教会づくり

私たちの「信徒の教会づくり」を考えていくために、いろいろな方に様々な考えを述べて頂くコーナーです。ご自分の思うところを投稿頂き、みなさまの意見の交換の場になれば、と願っています。

「過保護信徒」からの脱皮

桐原

1545年から1563年まで18年間かけて開かれたトレント公会議は、宗教改革の結果生まれたプロテスタントの嵐から教会と信徒をどう守るかを討議しました。それから400年間、「トレント公会議体制」とも言える中で、教会と信徒は守られてきました。その結果、ややもすると教会は沈滞し、世の中の激しい動きについていけなくなってきました。そのような教会を改革しようと開かれたのが第二バチカン公会議（1962～65年）です。従って第二バチカン公会議の目指すところは教会の活性化とそれを支える信徒の自律でしょう。

公会議から40年が経過し、その精神は徐々に教会の中に浸透してきたと思います。六甲教会の場合も大きな進展を感じます。そこには、既に8年経過しますが、教会の評議会規約（教区の評判は悪いようですが）も大きな役割を果たしてきたように思います。規約の目指したものは教会の活動はみんなで分担しながらも、そこに一体感を作るといったことだったと思います。それはある程度実現していると思います。もちろん、進展は司祭たちの適切な指導、公会議の精神をよく理解した信徒たちの活動があったことです。ひるがえって申しますと、規約は規約に過ぎません。いくら良い規約を作ってみてもそれを正しく運用できなければ何の役にも立ちません。「良い規約さえあればうまくいく」と考えることは全くの妄想です。むしろ現実から離れた規約は危険です。規約の改定にあたり十分配慮すべき点だと考えます。

教会のブロックについて思うところを述べます。ブロックが提案された時、司祭の数が減少してきているという現実の問題もさることながら、信徒は小教区に閉じこもるのではなく、小教区の壁を破るべきだと主張されました。私は後の考えに大変共鳴を感じました。第二バチカン公会議の精神に合っていると思いました。小教区にはそれぞれ特徴があります。信徒の数が多き教会（小教区）、会議室を多く持っている教会、教会学校がうまくいっている教会、若者の多い教会、そしてそうでない教会もあります。それらの教会（小教区）は持てる力、財産をお互いに提供しあって協力すべきだと思います。昨年、バザーで中央教会と住吉教会が協力し合ったと聞きました。これはブロック内のことですが、大変いいことだと思います。六甲教会の壮年会でも、主催する講演会にブロックにこだわらず、そして教会外の人にも参加を呼びかけたことがありました。そうした活動が盛んになるように望みたいと思います。カトリック神戸地区だより「つながり」の内容が徐々に充実し、皆さんに提供されるようになったこともいいことだと思います。ブロックは教区に必要な組織ですからおろそかにしてはいけませんが、これにこだわりますとブロックという新たな小教区を作ってしまうかねません。

最後に、最近気になることがありますので付け加えます。それは聖書解釈や典礼などについての戸惑いが信徒の間に出てきたことです。確かに新しい聖書解釈が書籍の中や説教、講話の中にも散見されます。またミサの典礼においてもことばやしぐさの変更されることがあります。枝葉末節であれば問題ないのかもしれませんが、戸惑いを生じさせると思える場合は信徒にしっかりと説明する必要があるでしょうし、信徒も理解できるように努力すべきでしょう。

「公会議以降は何でもあり」という風潮を作るのは大変危険です。「第二バチカン公会議体制」は司祭にも信徒に絶えざる努力を要求する体制だと思います。



みんなの広場

みなさまの分かち合いの場になれば、と「みんなの広場」を設けました。みなさまから原稿を頂戴しなければ成立しないコーナーです。どうぞご参加下さい。

「ペテロ岐部と187殉教者列福式」参加の旅

島中

平成20年11月24日（月、祝）長崎Nスタジアムにおいて、187人の列福式が日本で初めて盛大に執り行われました。

私達ツアーはA、B班31名は、午前10時には雨着を着込んで、東京地区の前列の席に座ることが出来ました。正午12時いよいよ開会式です。

祭壇に聖遺骨が安置されて、白柳枢機卿様の司式のもと、ミサが始まりました。

この日は荒れ模様で、曇り、雨のち曇りと変わり、また一時激しく雨が降り、まるで殉教者の方々が無念だった時代に残した涙と、福者に揚げられた今日の喜びの涙だった様に思われました。

ふと会場を振り返って見て、びっくり！スタジアムは人、人で埋まって熱気がいっぱい。記録によると外国、日本各地から約3万人が参加されたそうです。

やがて雨も上がり、薄日も射した3時過ぎには、この日のために練習されたであろう、長崎の信者さん達の聖歌大合唱を聞きながら、皆が感動と興奮に包まれて会場を離れました。

この記念日は、これから毎年7月1日に祝いとなるそうです。

明けて25日（火）から29日（土）までB班25名は、バス席もゆったりと殉教地を訪ねる旅に参加しました。この旅の毎日が尚一層の感動と感激を味わいました。

白柳枢機卿様と！一緒に過ごせたこと。中でも島原教会、大江教会、出水教会、トラピスト修道院、ペテロ岐部神父記念聖堂において毎日ミサに与れたこと、何日目かの夕食時に、「主人の遺影を三人とも持参しています。」とお話したら、「出して食卓に置きなさい。一緒に食事しましょう。」とお気使いださったこと、それと殉教者の子孫？の方達とお話出来たこと等など、私にとっては一生分の喜びを頂きました。枢機卿様のお声、穏やかなお顔、言葉の響き、杖を持たれたお姿が印象に残っています。

「全ての人々が大切にされ、尊敬され、人間らしく生きられる世界となるよう祈り、活動することを求めている。恐れずに進もう。」とのメッセージを心に留め、残された人生を歩み終えたいと念じた巡礼でした。

最後に悲しみよりも、より以上の喜びを与えてくださった神様の御業と御恵みに心より感謝と御礼を申し上げます。それと、この巡礼に誘っていただいたお二人の友人にも御礼申し上げます。



列福式に参加して

竹本

2008年11月24日（日）、長崎ビッグNスタジアムで行われた「ペテロ岐部と187殉教者列福式」に参加しました。

列福式は、正午からおおよそ3時間半ほどミサ形式で行われました。球場の中は、各教区ごとに席が決められており、大阪教区は一塁側スタンド、隣は平戸地区でした。大阪教区の前フィールドは、ボールを被った聖歌隊の人達で埋め尽くされていました。

列福式に参加する前、私は大浦天主堂の資料館で初めて本物の踏み絵を見ました。「今、踏み絵を踏んで改宗しなければ殺す。」と言われたら、今の私は死ぬのが恐くて、踏み絵を踏むと思うのです。

列福式の第二朗読「死も命も神の愛から私達を引き離すことは出来ない。」（使徒パウロのローマの教会

への手紙) と言える信仰が持てるようになりますように。

小雨が降る中で始まった列福式は、徐々に雨もあがり、式が終わる頃には夕陽が照りだしました。ペトロ岐部と 187 人の殉教者を祝福するかの様に……。



★★ 広報部より ★★

六甲教会 60 周年記念イベントとして、広報部では「写真展」と教会報 12 月号に「60 周年特別寄稿文」を掲載させていただきました。ご協力ありがとうございました。

また「60 周年記念絵葉書」(3 枚セット) も好評で、よく売れています。

まだ在庫はありますので、ご入用の方は事務受付にお問い合わせ下さい。

ただ 60 周年は過去から未来への通過点に過ぎず、今のこの時が大切ではないでしょうか。

今一度、これを機にこれからの教会のあり方、信徒としての役割を一緒に考えていきたいものですね。



大切なお知らせとお願い

主任司祭より

新年に当り、これまで司祭団や小教区評議会で話し合われて来た“**みんなで担う信徒奉仕職**”についてお知らせしますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。出来るだけ多くの人で担う、出来れば**みんなで担う**ことが一番大切です。生き生きした教会、心温まる教会・・・、本当に教会に来て良かった！という六甲教会にしたいですね。そのような教会を、子供たちや次の世代の方々に伝えて行きたいと心から願っています（お名前はアイウエオ順で敬称略とさせていただきました）。

教会の全てのメンバーは、主イエス・キリストの弟子として、いただいた信仰の恵みと喜びを日々出会う方に言葉と愛をもって伝えていく使命を受けています。しかし、ご高齢や病気のため、また大きな苦しみや試練のため、その使命を日々の犠牲や祈りによって果たしておられる方々も数知れずいらっしゃいます。教会はその方々の犠牲や祈りに支えられているのです。

—— その意味でも、ご病気の方々・ご高齢で困っている方々へのお見舞い（ご聖体を伴う場合を含め）を大切にしていきたいと思えます。

2) 聖書の勉強会や信仰入門講座など：

皆様は信徒やシスターの方々が担当する勉強会に積極的に参加し、互いに信仰について学び合い、信仰の喜びや辛さを分かち合い、励まし合うのが望ましいと思います。日々信仰に生きるために・・・。
六甲教会としては、クラスの担当や司会を担って下さる信徒の方々を養成し準備しています。

3) 教会の「専門部会」はどの部も必須のものであり、多くの方の協力を求めています。

教会報でお知らせしていますように、現在「小教区評議会規約」の改定を進めていますが、まず教会学校、中高生会という活動を従来の信徒会から専門部会に移設し、また「宣教部」を新設して結婚準備セミナーや図書係り、上記(2)の勉強会担当者などで構成する予定です。

4) 集会祭儀の司式者：2000年秋より教区の認可を受け、志田智徳、藤原泰、堀川義政の3名が司式者に任命され、その後、大倉本子、高橋純雄、藤井恵津子の3名、更には飯塚和彦、シスター小沢京子、佐久間肇、堤 緑、藤原恵子の5名が加わり、昨秋にはシスター大西房子、古泉百合の2名が新たに任命されて計13名となりました。この方々には信徒による言葉の祭儀、家庭や地区会やグループでの祈りの集い、主日の集会祭儀(海星病院内の聖堂)、将来には通夜の典礼などにも司式者として貢献していただくことになるでしょう。

5) 聖体授与の臨時の奉仕者：教会法および司教協議会の定めによれば、22才以上で信仰生活3年以上の適正を有する信徒となっていますが、同時に当教会では奉仕者のために研修会・黙想会を開き、良く奉仕できるように準備しています(なお、教皇庁典礼秘跡省の指針と日本の司教協議会の決定により、叙階の秘跡を受けていない信徒の奉仕者を上記の名称で呼ぶことになりました)。

さて毎年一度、この奉仕者の名前を教会の皆様に公表しています。即ち、阿部陽子、飯塚和彦*、牛尾啓子、大倉本子*、シスター大西房子、沖田知真子、シスター小沢京子、鍵山浩三、川合弘一、北上千恵子、古泉百合、河野光成、木暮靖夫、木暮陽子、佐久間肇、志田智徳、志水登美子、高橋純雄*、橋 道子、詫 洋一、堤 緑、中村治也、中村雄一、長田三代子、永田リタ、福島きよ子、藤井恵津子、藤井静子、藤原公子、藤原恵子、藤原泰、船井孝祐、堀川義政の計33名(事実上30名)の方々です(*印の方は、事情により主日ミサの当番から外れます)。今回も数名の方々の交替がありましたが、今後とも聖体授与の奉仕が信徒の間に広がって行くことを希望しています。

6) 婦人会が窓口になっている「ミサ案内係」(主日9時と11時ミサの前後)と壮年会が窓口になっている「海星病院内の聖堂当番」の奉仕について、確認しておきます(2006年6月号教会報参照)。

「ミサ案内係」はご高齢の方や教会へ始めて来られた方などに「聖書と典礼」・週報などをお渡しして聖堂に案内したり、ミサ後の忘れ物や聖歌集の整理に協力して下さっています。この1月より、婦人会の梅原明子・後藤翔子のお二人が世話役です。

「海星病院内の聖堂当番」は毎週2名がチームになっており、大西洋子・蛭田和子、木鎌安雄・木鎌歌子、木暮靖夫(世話役)・木暮陽子、鈴木久子・福島きよ子の4チーム、8名の方々です。これらの奉仕職にも、新しい協力者を求めています。

以上のことは、主なる神への信仰という偉大な恵みを自らの祈りと奉仕によって深めながら、また「信徒会」での互いの交わりと支え合いを通して、日々信仰に生きる喜びと勇気を感じていただきたいと切に願っているから

「聖堂及び信徒会館の空調設備更新工事」のために特別献金をお願いします。

小教区評議会

(1) 趣旨

「教会報11月号」でもお知らせ致しましたように、聖堂及び信徒会館の空調設備の経年劣化が激しく、直近に更新しなければならない状況となってきました。10月の小教区評議会でもこの件について論議致しましたが、実施せざるを得ないとの結論に達し、その後、当教会の関係者と施工業者との話し合いの結果、現在工事業者の提示額は約2,700万円になりました。

更に、12月の小教区評議会ではその費用をどう捻出するかについて議論致しました。

将来の教会運営を考えると財政面でも先細りになるのは確実で、今すべて教会財だけに頼るのは非常に危険であるとの判断から、工事施工額のうち1,500万円は信徒の皆様にご寄付をお願いしなければならないとの結論に達しました。

何卒、上記ご趣旨をご理解の上、ご協力の程よろしくお願い致します。

(2) ご依頼内容

① 寄付金額：

・原則1世帯、一口3万円をお願い致します。

② お支払い期間：

・2009年1月～3月

(但し、目標額に達しない場合、期間延長することもあります。)

③ お支払い方法：

・通常の献金袋とは別に、「空調設備更新工事へのご寄付」の封筒を設けます。

・お支払いは一括払いでも分割払いでも結構です。

・寄付封筒は、通常の維持献金袋と同様に個人別状差しにお入れします。

※ 尚、ご不明の点は小教区評議会 高山議長または蛭田副議長にお問い合わせ下さい。

オルガン導入準備委員会」より報告

現在使用中の電子オルガンは寿命が近づいています。レンタルなどの楽器で一時しのぎをしながら今のそしてこれからの六甲教会にふさわしい楽器はどのようなものなのか？ よく考えなければなりません。委員会では、ミサが必要とする音楽面、教会諸行事の面、また教会財政面など多方面から検討を重ねています。

今後は信徒の皆様にも、実際にいろいろなオルガンを体感していただく機会を持つ予定です。

教会の将来の楽器について、共に考えていきましょう。ご意見をお待ちしております。

2009年度 年間教会行事

月	日	曜	行 事
1	1	木	元旦 神の母マリアの祭日 0:00、7:00、11:00ミサ
	2	金	初金 7:00、10:00ミサ
	11	日	成人式ミサ 10:00ミサ後、教会新年会(新成人、新入信徒と共に)
	17	土	集会祭儀 10:00(阪神淡路大震災祈念)
2	6	金	初金 7:00、10:00ミサ
	14	土	拡大小教区評議会 9:30~14:30
	15	日	世界病者の日(病者の秘蹟)
	25	水	灰の水曜日(大斎、小斎)7:00、10:00、19:00ミサ
3	1	日	四旬節第1主日
	6	金	初金 7:00、10:00ミサと十字架の道行き(4月3日まで四旬節中の毎週金曜日)
	8	日	四旬節第2主日 9時のミサ後、春の墓参 小教区評議会 11:15~
	20	金	集会祭儀と十字架の道行き 婦人会総会 11:15~
	29	日	壮年会総会 11:15~
4	3	金	初金 7:00、10:00 ミサと十字架の道行き
	5	日	受難の主日(枝の主日)7:00、9:00、11:00
	9	木	聖木曜日19:00(主の晩餐)
	10	金	聖金曜日19:00(主の受難)(大斎、小斎)
	11	土	聖土曜日19:00(復活徹夜祭)
	12	日	復活の主日7:00、11:00 ミサ後、桜井神父送別会
	18	土	教会学校入学式
	19	日	復活第2主日(初聖体と祝福式)10:00ミサ後、初聖体と祝福式のお祝い会
5	1	金	初金 7:00、10:00ミサ
	10	日	小教区評議会 10:15~
	17	日	10:00ミサ後、小教区評議会年次報告会11:15~
	30	土	マリア祭 7:00、10:00 ミサとロザリオの祈り
	31	日	聖霊降臨の主日 東ブロック合同堅信式(神戸中央教会)
6	5	金	初金 7:00、10:00ミサ
	7	日	7:00、9:00ミサ 神戸地区信徒大会13:00~ 於:篠山
	14	日	キリストの聖体(各ミサで両形態拝領)
	19	金	イエスのみ心 7:00、10:00(~15:00聖体顯示)
7	3	金	初金 7:00、10:00ミサ
	12	日	小教区評議会 10:15~
	31	金	イエズス会創立者 聖イグナチオの記念日
8	6	木	平和旬間 8月6日(木)~15日(土)
	7	金	初金 7:00、10:00ミサ
	15	土	聖母の被昇天 7:00、10:00ミサ
	22	土	納涼の夕べ 17:00ミサ

9	4	金	初金 7:00、10:00ミサ
	13	日	秋の墓参 9:00のミサ後
	15	月	三日月会ミサと総会 13:00
10	2	金	初金 7:00、10:00ミサ
	10	土	大掃除 9:30
	11	日	小教区評議会 10:15~
11	1	日	諸聖人の日 7:00、10:00ミサ
	2	月	死者の日 10:00のミサ後、墓参
	6	金	初金 7:00、10:00ミサ
	7	土	17:00(バザー準備のため)19:00ミサ
	8	日	9:00ミサ後、10:30 チャリティバザー
	15	日	11:00ミサの中で七五三の祝福
	29	日	待降節第1主日
12	4	金	初金 7:00、10:00ミサ
	8	火	無原罪の聖母マリア 7:00、10:00ミサ(六甲教会創立記念日)
	13	日	小教区評議会 10:15~
	24	木	クリスマスイヴ 16:30、19:00、21:00ミサ
	25	金	主の降誕 7:00、10:00ミサ

【典礼部だより】

●昨年11月より、これまで小学生と中高生が各々別の日に担当していましたミサ当番を、子ども達の典礼当番を支えるリーダーの不足のため、教会学校と中高生会が協力して行うことになりました。下記の内容にて、両ミサの当番を小中高校生混成で担当しています。

① 第2日曜9時「子どもとともにささげるミサ」

・典礼書：「みんなでささげるミサ」 ・歌集：「こころをあわせて」

② 第4日曜9時「子どもとともにささげるミサ」

・典礼書：「ミサ典礼書」 ・歌集：「こころをあわせて」

※「中高生とともにささげるミサ」は、「子どもとともにささげるミサ」に名称を変更し、ミサ当番表は侍者会(小中高校生所属)と統合されました。

●11月2日 侍者会の報告

<参加者>

12名(小学生 8名(内、2名侍者未経験者)、中学生 3名、高校生 1名)

<当日の感想>

- ・終日の長時間にわたるプログラムでしたが、子供たちは良く頑張っついてきたと思います。姿勢やお辞儀の仕方が、以前に比べてよくなってきているように思います。
- ・侍者会のプログラムの中に、「全員でミサに与ること」を組み込んだことは、大変良かったと思っています。侍者当番に当たった3人は、普段のミサ以上に緊張してぎこちない面もありましたが、ミサの前に、「侍者会の最中だ」と言うことを司式されるマシア神父様にもお伝えしたところ、マシア神父様は3人を励ましてくださって、彼らには良い経験になったと思います。

<侍者の当番について>

- ・侍者3人体制(3人中1人をリーダーとする)が定着してきているので、今後もこの体制を維持していきたいが、反面、当番に当たる回数が減るので侍者の動作を忘れる、興味が薄れる等の弊害も出てきているようです。
- ・興味を持って真剣に前向きに取り組んでいこうとする子供と、興味が無く仕方なく侍者をしている子供の二分化が起こっているようですが、当日集まってきた子供たちは、どちらかと言えば、前者に当たっているようです。

<今後の侍者会について>

- ・リーダーとしての養成に少し重点を置いていきたいと考えています。(年少者に侍者の動作を指導する、年少者への気配りができるように。)
- ・本来は、小学生、中学生、高校生と学年を区切って年齢層に応じて指導すべきところを、対象学年を小学生～中高生としたため、中高生の参加者が少なくなりました。少なくとも年に一度の開催を目指しているため、教会学校・中高生会の年間スケジュールとの兼ね合いでこの時期となりました。なるべく機会を作っていきたいと思います。
- ・中高生、特に高校主を対象に、侍者の動作だけでなく、ミサについて知る、考える機会が必要だと思われまますので、その計画を立てていきたいと考えています。

★★★ クリスマス イベント ★★★



教会学校 初参加！！



さる12月6日(土)、教会学校の児童38名が「神戸市民クリスマス」(12月19日開催)のプレイベントとして、JR六甲道駅前でクリスマスソング・聖歌を歌い、「神戸市民クリスマス」開催のチラシ配りを行った。「神戸市民クリスマスプレイベント」は神港教会・住吉・六甲の三教会合同で、クリスマスの福音を一般の方々へ伝える活動の一環として行った。この日は大変寒く、カイロを抱えての野外コンサート。六甲教会の皆様の応援を頂き、子供達は休憩を挟んで、2回公演を元気に歌うことができた。1つの目的に3教会が一致して取り組んだ事も嬉しい。

その後、六甲教会児童のみ「シナピス チャリティーコンサート」に参加のため中央教会へ移動。子供達は野宿者支援について学習し、野宿者支援のために歌う目的意識を持っての参加。子供達の歌声が会場狭ましと響き、聴衆の皆さんの顔もほころび、心をホッコリさせたことは言うまでもない。とても良い体験になり、子供達の心に残る一日になった。

教会学校の子供達を支えて下さった評議会の方々、ご父兄の皆さま、信徒の皆様、そして神父様方に心より感謝申し上げます。
(教会リーダー 山本)



寒さの一段と厳しくなった12月6日(土)午後1時より神戸中央教会集会室におきまして、神戸地区社会活動委員会シナピス神戸主催の「社会活動神戸センター・須磨夜回り会支援クリスマスチャリティーコンサート」が開催されました。このコンサートは野宿者支援活動を知ってもらい、夜回りなどの活動に参加していただけたら、そしておじさん達も一緒に音楽を楽しんでもらい、多少のカンパを頂けたらという欲張りコンサートです。今年は六甲教会の教会学校の子供達が元気な歌声を聞かせてくれました。コンサート出演にあたり、リーダーが釜ヶ崎夜回り体験をもとに劇の脚本を書き、5、6年生がそれを演じて、低学年に見てもらおうという事前学習をして臨んでくれました。

JR六甲道でのキャロルを終え、駆けつけてくれた子供達は、暖かなお部屋でホット一息。庭ではおじさん達が交流会用焼きそば作りの実演をしている間に、リハーサルを終え本番に。みんなニコニコといい顔で、大きな声で元気いっぱい歌ってくれました。大人がドキッとするような問いかけもありました。手話を交えて、練習の成果を十分に発揮してくれました。大きな拍手をいただき、「やったー」という満足そうなみんなの表情が輝いていました。

歌声を聴きながら、コンサート出演を決めてこの日に至るまで、リーダー達の努力、尽力を想像し、目頭の熱くなる想いでした。歌い終わったリーダーに思わずハグ(抱き合う)してしまいました。会場でのカンパの総額は11万円でした。社会活動神戸センターと須磨夜回り会に折半し、届けさせていただきました。皆様の寛大なご協力に深く御礼申し上げます。

教会学校の皆さん、そしてリーダーたち、心から感謝を込めて、ありがとう！！

神戸地区社会活動委員会シナピス神戸
事務局 長瀬

中高生も大活躍！！

中高生達も教会内でチャリティーコンサートを行い、集まった献金でお菓子等持って、朝早くから釜ヶ崎まで出かけ、精一杯の演奏なども聴かせてあげたりした。おじさん達も彼らの温かい気持ちと演奏に満足された様子でした。きっとこれらのことは良い思い出として彼等の心の中にいつまでも残ることだろう。



中高生会チャリティーコンサート



釜ヶ崎でのコンサート

「海星病院」での歌のサービス

12月18日、神戸海星病院にてキャンドルサービスが行われました。「六甲教会混声合唱団」有志の方々による聖歌隊と医師・職員の子供たち扮する小さな天使が、患者の方々の元に出向いて下さり、美しい歌声に涙を流されながら感動されている患者の方も多数おられました。入院されている患者の方々にとって、辛い入院生活の中で季節感を感じられる事がどんなに大切であるかを実感し、また、素敵な歌声から感じられる癒しの効果や不安の軽減、闘病への意欲を向上されることとなっているのは、患者の方々の反応から感じ取られました。ご協力ありがとうございました。(神戸海星病院CS委員)

主任司祭の地平線

この元旦に全世界の教会は、「神の母マリア」の祭日をお祝いします。マリアは受胎告知を受けた時、これから一体どんな運命が待っているのだろうか、と心が乱れたことでしょう。馬小屋での幼子誕生、羊飼いの驚き、東方からの博士達の来訪、幼子たちの虐殺、エジプトへの逃亡、ナザレトへの定着など、次々と起こってくる不可解な出来事に対して、“お言葉通り、我になれかし”と祈りながら、すべての事柄を心に納め思い巡らしておられた。即ち、過酷な試練と地上のドラマが繰り広げられていく中で、聖書はマリアに沈黙を守らせています。マリアにとって必要なのは、“祈りと神への信頼”だったという事ではないでしょうか。

私たちが個人の考えやおしゃべりを一度中断し、心を静め耳を澄まして神のみ旨を聞き取りたいと思います。此の世界はすべての人に病いと死が存在し、何が起きるか予測の出来ない世界です。矛盾や不正のある不条理な世界です。祈りなくしては、まともに生きていけない世界です。母なるマリアの取り次ぎによって、新しい年を“祈り”で始めましょう。

同じく教会は1月1日を「世界平和の日」と定め、戦争や分裂、憎悪や飢餓のない平和な世界が来るように特別な祈りを捧げます。キリスト者にとって、平和を作り出して行くことはキリストを告げ知らせることに他なりません。新年に当たって私たちは、平和な世界の実現に向かって歩む決意を新たにしましょう。まず各家庭で、友人間で、仕事の場で、学校で・・・。

各部だより

婦人会

- 1月 2日(金) 初金ミサ 10:00
- 1月11日(日) 10:00 ミサ後 教会新年会
お手伝い当番 西2, 3, 4, 5
- 1月16日(金) 10:00 ミサ後 婦人会新年会

壮年会

- 1月25日(日) 12:15 新年会(第1,2会議室)
多数ご参加下さい。

青年会

- 1月11日(日) 新年会(定例会はお休み)
- 1月25日(日) 12:30 定例会(第5会議室)
内容:分ち合い

「日韓青年交流食事会(2/1)」の打ち合わせ

社会活動部

- マシア神父の勉強会 1月19(月)10:00
2月 2(月)10:00
- 「聖書と生活(ヨハネ福音書)」を読む
2月6日(金) ミサ後、社会活動部連絡会

<お 知 ら せ>

【社会活動部より】

- 1 / 7 (水) 10:00 手芸の集い (第1・2会議室) どなたでも参加ご自由です。
1 / 10 (土) 10:00 炊き出し 小野浜グラウンドにて配食のお手伝いやお話相手だけでも OK です。
1 / 15 (木) 14:00 ベタニアの集い (イグナチオホール)
1 / 18 (日) 9:00 ミサ後 手作りコーナー (イグナチオホール)

📖 図書紹介

愛する—瞑想への道—

ウィリアム・ジョンストン著 (南窓社)

神への愛にひたり、祈りを深めたいと願っておられる皆様に「愛する」をご紹介します。「愛する」は瞑想と観想的祈りへの道を、トマスという架空の人物あての手紙という形で書かれた具体的な祈りの手引書です。初歩の祈りの段階から沈黙の神秘主義という最高の段階までトマスを導いていかれる自伝的著作です。著者はアイルランド人のイエズス会司祭ジョンストン神父様。1951年に来日以来、長年日本の教壇で英語・英文学を教えてこられました。

観想的祈りとは聖書にある神秘主義のことで、神秘主義は秘儀・秘教的なものではなく、経験による知識であり、推論的なものではないと説明されます。「無際限の愛にひたること」が一握りの神秘家たちの特権ではなく、すべての人間は一人残らずそのような神秘体験に招かれていると。どのような祈り方も最後は観想に至り、大切なのは信仰と愛だと教えられます。

「トマスよ」とゆったりと語りかけられる言葉は、優しい父親から教えられているように感じられ、はじめは読みやすい本だと思いました。ところがじっくりと読んでみると、書かれている言葉の深さと重みに圧倒されていきます。気が遠くなるような深遠な世界です。

ここでの「愛する」は loving ではなく being in love。神様に愛されている私達の側からの愛が求められます。愛し愛される者へと、「神があなたを愛するように、あなたも神を愛しなさい」と励ましつつ、愛の神秘に導いていけます。

ジョンストン神父様は英語でたくさんの本を書いておられ、世界各国の言語に翻訳され、多くの人に読まれているそうですが、日本では「愛する」が最初の日本語訳の本です。祈りと祈りに基づく行動だけが苦悩する現代人を救う事ができますと書いておられるジョンストン神父様は、そのように行動され、海外では平和主義者としてもよく知られていらっしゃるそうです。

今、教会においては信徒の時代といわれます。一般の信者が観想的な祈りに関心を持つようになってきているのが今の時代の特徴とも言われているようです。

「愛する」に書かれています。人類は今、混乱しながらも成熟に向かって歩みつつ新しい段階に差し掛かっており、新たな意識が生まれつつありますと。

今の時代の求めに、勇気をふるって答えてくれた本だと思います。

塩飽

1月の予定

日	曜	教会暦	教会行事
1	木	神の母聖マリア(祭日) 世界平和の日	0:00 7:00 11:00 新年ミサ
2	金	聖バジリオ 聖グレゴリオ(ナジアンズ)司教教会博士	初金 7:00 10:00 ミサ
4	日	主の公現(祭日)	
10	土		14:30 教会学校始業式(もちつき大会)
11	日	主の洗礼	7:00 10:00 ミサ 成人式・教会新年会 17:00 海星病院集会祭儀
15	木		14:00 ベタニアの集い
16	金		10:00 婦人会 ミサと新年会
17	土	聖アントニオ修道院長	10:00 集会祭儀(阪神淡路大震災祈念)
18	日	年間第2主日 キリスト教一致祈禱週間(25日まで)	
19	月		14:00 三日月会ミサと例会
21	水	聖アグネスおとめ殉教者	
24	土	聖フランシスコ・サレジオ司教教会博士	
25	日	年間第3主日 カトリック児童福祉の日	12:15 壮年会新年会 17:00 海星病院集会祭儀
26	月	聖テモテ 聖テトス司教	11:00 ベビーとママの集い
28	水	聖トマス・アクイナス司祭教会博士	
31	土	聖ヨハネ・ボスコ司祭	

広報部員のつづやき

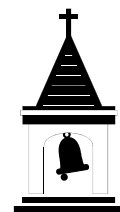
昨年(2019年)の12月8日で満60周年を迎えた六甲教会。人間で言うと還暦ですが、60年という歳月の流れの中で、多くの神父さん、修道士、シスター、そして先輩信徒の皆様の献身的な働きの積み重ねが、今のこの教会を支えてきた原動力ではないでしょうか。

今回「60周年記念写真展」に携わり、私自身、それを痛いほど感じました。神父さんの数も減り、信徒の役割が益々重要になってきている反面、信徒の高齢化も進んでいます。しかし、今月号の記事に子供達の教会外での活動を取り上げながら、この子供達の将来の為にも、「この地にいつまでもこの教会が存続し、アンジェラスの鐘が、この街に福音を告げ知らせることが出来ますように！」
新年にあたって、心新たに祈りたいと思います。



冬の陽射しの中で、聖堂の壁には美しく十字架が影を落としていた。

(T.H)



教会報2月号の発行は、2月1日(日)です。
編集会議は1月25日(日)です。
記事原稿は、1月18日(日)正午までに信徒会館
受付へご提出願います。(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会
〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21
電 話 078-851-2846
発行責任者 桜井彦孝 神父
編 集 広 報 部